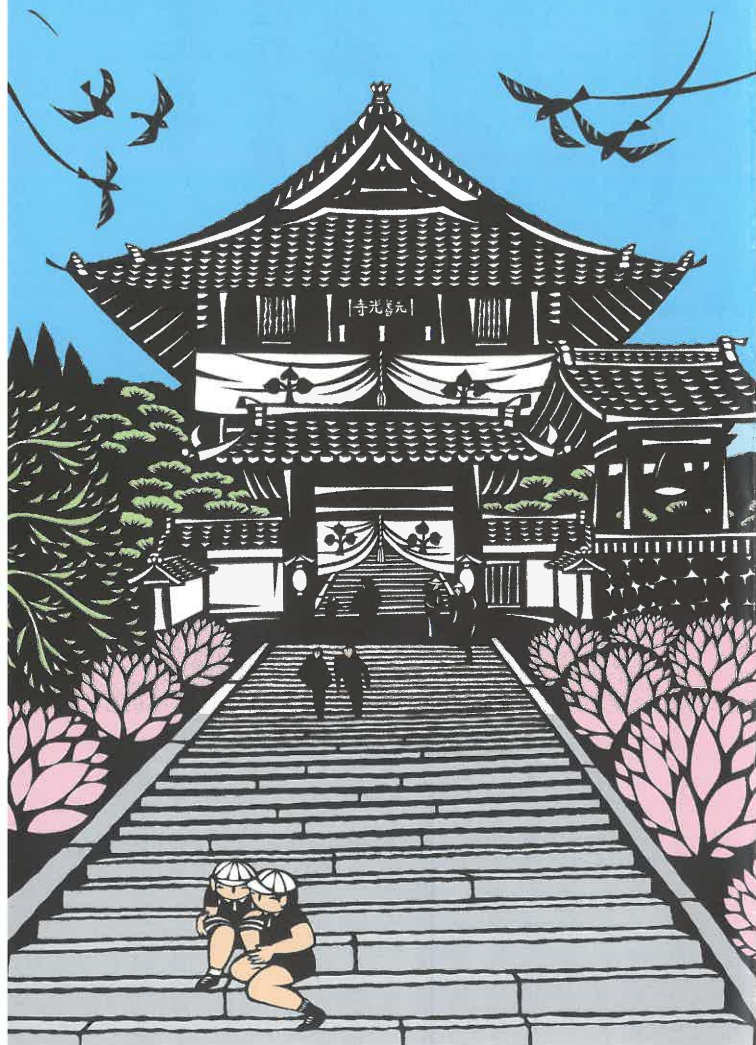


元善光寺

南信州・飯田



本多善光公誕生地

宝物殿拝観・西国三十三観音霊場お砂踏み

◆拝観料1人500円

御祈祷 御回向

◆厄除、家内安全、交通安全などの諸願成就の御祈祷・御先祖供養・水子供養随時受け付け致します。(予約優先)

主な 年間行事

◆正月元旦～7日初詣
◆2月3日節分大護摩祈禱会並びに豆まき
◆3月春季彼岸会 ◆8月大施餓鬼会 ◆9月秋季彼岸会
◆10月、11月七五三祈願祭 ◆12月31日二年参り、除夜の鐘

元善光寺 付近の 観光地

◆麻績の舞台桜(樹齢350年。花ごとに花びらの数が違う大変珍しい品種で、全国でここで見られない。元善光寺より車で1分、徒歩3分。)
◆竹田扇之助記念国際系操り人形館
◆屋神温泉郷(美人の湯) ◆天竜峡国定公園温泉
◆天竜舟下り(弁天～時又港) ◆天竜ライン下り(天竜峡～唐笠)
◆りんご狩り(8月1日～11月末) ◆ヘブンスそのはら(星空・紅葉)

交通案内

◆中央道座光寺スマートインターより車で5分。
◆中央道飯田及び松川インターより車で20分。
◆JR飯田線元善光寺駅から徒歩8分。
◆中央道特急バス、名古屋バスセンターより約2時間。
◆中央道特急バス、新宿バスセンターより約4時間。



御開帳の御案内
七年(丑年・未年)に一度の盛儀

御開帳とは、霊験あらたかにして日頃は厨子の奥に安置秘蔵する仏像や仏舎利の扉を開き、帳(とぼり)をあげて何年かに一度と期を定めて拝する法会の事であり、元善光寺では長野の善光寺と同じく、数えの七年毎に一度、丑年と未年に御開帳を行っております。

御開帳となる元善光寺の御本尊様は「一光三尊阿弥陀如来」様であり、一つの光背の中に阿弥陀如来(中央)、観音菩薩(向かって右)、勢至菩薩(向かって左)の三体の仏様が並ぶ善光寺仏独特の形をされております。

開帳となった前立の御本尊様の右手に金糸が結ばれ、やがて五色の綱となり回向柱へと結ばれます。この回向柱に触れていただくことで、より仏様の御利益を戴けるといわれております。



一度詣れよ
元善光寺
善光寺だけでは
片詣り



御本尊 一光三尊阿弥陀如来様 御影

御縁起

お釈迦様のご在世当時、天竺国（現在のインド）の月蓋長者の願いによって此の世に出現された阿弥陀如来様は、今からおおよそ千四百年前、欽明天皇の御代に百済国から日本へ渡ってこられました。
しかし物部氏と蘇我氏の争いの後、物部氏によって難波の堀に沈められてしまいました。
その後、推古天皇十年に信州麻績の里（現在の飯田市座光寺）の住人本多善光公が、国司の供をして都に上った時に、難波の堀にて阿弥陀如来様にめぐりあい生まれ故郷へお連れし、お祀りしたのが元善光寺の起源です。
その後阿弥陀如来様の御告げにより芋井の里（現在の長野市）に阿弥陀如来様を御遷しすることになった時、再び御告げがあつて「毎月半ば十五日間は必ずこの麻績の古里に帰り来て衆生を化益せん」との御誓願を残されました。
善光公は山中にて授かった霊木をもとにして自ら二刀三礼の上、御本尊様と同じ大きさの御尊像を彫られたのが元善光寺の御本尊様となりました。
そもそも善光寺の名は善光公の名を以って付けられたものです。
御詠歌「月半ば毎に来まさん弥陀如来 誓いぞ残る麻績の古里」とある様に、古来長野の善光寺と、こちら飯田の元善光寺と両方お詣りしなければ片詣りと云われております。



座光の白

お戒壇巡り

御本堂外陣より、履物を履いたままでお戒壇巡りをお参りいただけます。
お戒壇巡りとは、仏様の胎内巡りともいい、暗闇の中を手すりをたどって進み、御本尊様の真下に位置する極楽往生・開運の鏡前（仏具の独鈷型）に触れていただくことで仏様とより深いご縁を結んでいただくものになります。元善光寺のお戒壇巡りは無料でお参りいただけます。

宝物殿

元善光寺には数々の宝物が残っております。宝物殿には霊宝座光の白ほか御涅槃像、鬼瓦の前身と言われる木彫りの鬼面、藤原時代の愛染明王像、その他仏像、掛軸等百二十点余が展示、公開されております。

座光の白の由来

今から千四百年前、長野市の善光寺の出来る前に善光公が御本尊を難波の堀より迎えてお祀りするとき、この白の上に安置して供養されること四十二年間。後にこの白から光明が輝いたのでこれを座光の白（台座が光ったの意）といい、元善光寺の霊宝であります。

御涅槃像（おねはんぞう）

御釈迦様が亡くなられた事を涅槃に入られたと申します。その時の御姿を表したのがこの涅槃像であります。当山には二体あり、一体は飯田市の文化財の指定を受けております。

平和の鐘

この鐘は戦時中供出の後、昭和二十五年四月平和を祈念するために当時の衆議院議長、大臣各位の協賛によって再鑄奉獻せられたもので、銘を善光寺貫主清水谷大僧正に、「平和の鐘」の揮毫は元久迩宮朝融王殿下の筆になるものであります。
鐘の目方は三五〇貫（1312キログラム）。

平和殿

間口十二間、奥行七間半の建物で、西国三十三番の札所の御観音様をお祀りしており、西国三十三番の霊場お砂踏み参拝が出来ます。



平和殿 内部（お砂踏み）



平和殿 外観



お戒壇巡り